

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

【防災】

平成27年度9月26日(土)、都跡地区自治連合会主催の「都跡ふれあい祭り」において、本校生徒会本部役員が、平成26年12月に、文部科学省委託事業奈良市学校施設の防災力強化プロジェクトに参加し、平成26年12月に、東日本大震災の際、地震の被害をうけた仙台市に現地視察に出向き、学ばせてもらったことと、現地視察を受けての校内や奈良市の防災生徒会での活動を、地域のみなさんに説明した。

本校での取り組みは、まず素に現地視察の報告会をおこなった。そして、全校生徒に報告を受けてのアンケートを実施し、グラフ化した。[「この報告会で防災への意識が前より高くなった」という質問では、「はい」が90%で、「いいえ」が10%でした。]

二つ目に、校舎内、教室内の危険箇所調べをおこないました。教室内の危険箇所では、「電子黒板や給食の配膳台が危険である。」という意見があり、電子黒板の画面に飛散防止シートを貼り、電子黒板本体をワイヤーで固定しました。

三つ目には、部活動の最中に地震が起こった時のことを想定して、部活アンケートを実施し、3学期に抜き打ち避難訓練をおこないました。

【食育】

平成27年1月、本校第1学年の総合「なら」の授業において、「奈良の食を知ろう」という単元で、柿の葉寿司を作った。

本単元では、1学期に「奈良を知る」という単元で県庁に行って学んだ奈良の特産品などをヒントに奈良の伝統的な食文化について考えさせた。また、2学期に行った「神戸に学ぶ」単元での神戸の食文化、特に中華街や異人館近辺にあるような異文化を取り入れた食文化との違いを考えながら、奈良の伝統的な食文化の傾向やそれが根付いた歴史的背景にも迫った。

さらに、奈良県の3分の2にも及ぶ南部山岳地帯で伝統的に食べられてきた「柿の葉寿司」を作る体験を通して、昔の人の知恵や工夫を学ぶ。この「柿の葉寿司」作りを通して、自分たちが調べ、考えてきた奈良の伝統食の傾向やその背景、根付いた理由などを再検証し、9年生の修学旅行に生徒が持参する奈良アピールパンフレットの作成にもつなげることになる。

生徒はこれまで、小学校1年生から6年生までの間に、自分たちの学校、自分たちの町、自分たちの校区の世界遺産、奈良の世界遺産と少しずつ範囲を広げながら学習してきた。生徒たちは1学期の「奈良を知る」学習の中で県庁での仕事をされている様子や裁判所での仕事内容の説明などを見聞きして、今までは知識だけで知ってはいたが、奈良県全体に関わる仕事があることを改めて実感したようである。さらに2学期には葛を扱っている業者の協力により、南部山岳地帯の特産品である葛を使った料理にも挑戦し、奈良市だけではなく広く奈良県に目を向けた。

第一次では、学級全体の話し合いの形で、2学期に行った葛料理の体験を思い

出しながら、奈良の伝統的な食文化で、生徒が知っているものがどれくらいあるのかを確かめ合わせた。

第二次では、班ごとの調べ学習で、奈良の伝統的な食文化について、本やインターネット、地域の方や家の人からの聞き取りなどの手段を使って調べさせ、その背景を探るために話し合わせた。

第三次は、各班の発表をもとに、班で話し合わせ、奈良の伝統的な食文化の特徴について考えさせ、発表させる。また、「柿の葉寿司」作りと試食を通して、特徴を実感させた。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）